

室内環境における化学物質曝露実態の調査に関する

ペット動物の血清およびご家庭のハウスダスト試料の提供について（依頼）

愛媛大学大学院農学研究科生物環境学専攻
環境保全学コース環境計測学研究室
准教授 水川葉月

1. 研究の背景と目的

人は1日の85%~90%を室内で過ごしていると言われており、室内空気やハウスダストを介して多様な化学物質を取り込んでいます。室内環境では難燃剤、染料・塗料、医薬品、殺菌・殺虫剤など様々な人工化学物質が使用されており、中でも揮発性の低い化学物質は、空気よりもハウスダストに吸着し、人の体内に取り込まれると考えられています。近年では、このようなハウスダストを介した室内での化学物質の取り込みとアレルギー疾患や化学物質過敏症との関連が懸念されています。また、最近では飼い主（人）とともにペット動物においても室内の滞在時間が長時間化しており、また、ペットは床と近い空間で生活する/毛づくろいなどにより毛に付着したハウスダストを取り込むといった行動があるため、人のみならずペット動物においてもハウスダストを介した化学物質の取り込みによる健康への影響が心配されます。

しかし、ハウスダストは組成が煩雑であることから分析が難しく、これまでにハウスダストを介した化学物質の影響評価の検討が十分になされていません。そこで、ハウスダストに残留する農薬や抗菌剤、殺虫剤、有機フッ素系化合物（PFASs）、残留性有機汚染物質などに着目し、これらの物質による室内環境の汚染実態とペット動物への取込量を把握し、リスク評価の調査・研究を行うために、ペットの血清試料とハウスダスト試料の提供をお願い申し上げます。

2. 血清およびハウスダストの採取方法およびアンケートの記入

ペット動物（イヌ/ネコ）の血清は、依頼者の共同研究先である北海道大学獣医学部動物医療センター（担当：横山 望 獣医師）もしくは岡山理科大学獣医学部獣医学教育病院棟（担当：佐伯 亘平 獣医師）で採取・保管していただきます。担当獣医師に日時を相談後、当該動物病院までペット動物を連れてきていただきます。

室内のハウスダストを普段ご使用の家庭用掃除道具（掃除機・ほうき等）にて採取後、配布したチャック付きプラスチックバックに全量入れて室温にて保存願います。紙パック式の掃除機を使用されている場合は、使用済の紙パックごとチャック付きプラスチックバックに入れて提出願います。採取したハウスダストは、血清採取した動物病院もしくは依頼者まで提出をお願い申し上げます。

また、ハウスダストの提出とともに、プラスチックバックに記載されているQRコードを読み取っていただき、Google フォームでの血清・ハウスダスト試料に関するアンケートと同意書への回答もお願い申し上げます。

3. 依頼者

愛媛大学大学院 農学研究科 生物環境学専攻

環境保全学コース 環境計測学研究室

准教授 水川葉月 (mizukawa.hazuki.jg@ehime-u.ac.jp)

住所：〒790-8566 愛媛県松山市樽味3丁目5番7号

電話：089-946-9908